学会発表まとめ

文学研究科　西　本　朗　崇

豊臣期の鷹献上について

◎まとめ

豊臣政権のもとに行われた鷹の献上は様々な大名が行うか、秀吉の命令によって行われてきた事例は多数みられるが、先行研究の蓄積は少ない。特に2000年代以前は中世後期における島津氏研究も浅く、他家の研究と比べると研究史の立ち遅れも指摘されている（新名仁2014）その中で2000年代以前に島津氏の鷹献上についての研究には、芥川氏のものがある（芥川龍男1980）これは中世期に衰微したとみなされていた鷹狩りに対する疑念から、豊後大友・島津氏などの九州中世史史料を再検討し、豊臣政権が日向鷹巣奉行設置に至った事を明らかにしている。

◎鷹巣の上納

島津氏、豊臣政権間で協議していた痕跡が多くみられ、実際に政権側からの人員派遣も行われている。政権側も積極的に関与していることが分かる。

政権側の鷹巣への比重は方広寺の大仏と同じ朱印状。このことからかなり重く見ていたと考えられる。

◎なぜ鷹を贈るのか

秀吉自身の権力を見せつける一種の政治パフォーマンスの可能性

鷹を安定的に得るために鷹巣奉行ではないか

参加資料調査・学会 ―――― 中津市資料調査（8月）

―――― 日本史研究会（9月）